

海岸漂着物に関する県立高等学校の取組について

資料 1-4

学校名	授業、部活動等で行った事例	成果等
若狭高等学校	・探究のテーマをして、個人で取り組んでいる生徒がいる。その内容は、定時制校内発表会で他の生徒、教職員と共有した。	・身近な課題として、学習を進めてきた本人はもちろん、他の生徒も認識を深めた。
敦賀高等学校	・ロングホームルームにて、年に1度松原海岸の清掃を実施(1.2年生対象)	・生徒が地元の海岸のゴミ問題について考えるきっかけになっている。
美方高等学校	・探究学習において、海岸漂着ゴミとアートをテーマに活動しているチームがある。このチームが地域の小学校や施設で出前授業と体験活動を行っている。	・小学生からは漂着ゴミへの関心が高まった旨のアンケート結果を得た。またこの活動を地元中学生のチームが引き継いで活動してくれることが決まった。
非公開希望	地理総合(2年): 海洋漂着ごみの問題について概説 地域探究部(1~2年): 下水処理関連企業より廃プラスチックによる水質汚染に関する講習を予定	
福井商業高等学校	JRC部で、ボランティア活動として実施している。 清掃活動: ①三国サンセットビーチ清掃 今年度は1月までに17回実施。(2月に2回、3月に2回実施予定) (これまで12回は単独で、5回は福井大学サーフィン部などと合同で実施) ②街、川清掃 街や川のごみが海に流れ込むことから、福井駅前周辺や底喰川、地域の清掃を実施。 三国サンセットビーチごみ(三国温泉前50m四方で11月末から12月末までの1月間にたまったごみについて) ①ごみ全般調査 ごみを分別し容量、重量の計測。 ②ペットボトル調査 回収したペットボトルの生産国調査、ラベルの有無の調査。	生徒が清掃活動で気づいた問題点(ポリ袋が多い・ポリ袋が誤飲されている、ペットボトルが多い、多くのペットボトルのラベルがはがれている)について、生活の中で解決できる方法について考えている。 定期的に清掃することにより、砂浜の地形の変化に気づくことができる。また季節によって落ちていくごみの変化を知り、国外からの漂着物なのか国内のごみなのかなど気づくことができる。 脱プラスチック活動: ①ポリ袋ごみ対処法として新聞紙で袋を作成しスーパー、デパート等に提供。配布活動も実施。 ②ペットボトル対策としてイベントでラベルレスペットボトルの紹介やウォーターサーバー設置を学校に要望。 データ分析: 2017年から2024年のごみ調査のまとめ ①プラスチックごみが全体のごみに占める割合が74.1%から95%以上に増加。 ②ごみ1キロ当たりのペットボトルごみ本数が、0.5本から2.6本の約5倍に増加。 ③50mあった砂浜が2023年頃から砂浜浸食によって2025年2月には約30mに激減。 啓発活動: ①ワークショップの開催 2022年から県のイベント等でプレゼンをしていたが、もっと多くの人に知ってもらうため、公民館や児童館・視覚障がい者施設で、ごみや浸食の実態の報告のほか、ビンゴゲーム、ごみ拾いゲーム、〇×クイズなどを通して、地域の人々や子どもたちに知識を伝えている。 視覚障がい者施設ではワークショップ開催以降、視覚障がい者も新聞紙袋を作りスーパーに提供を続けている。 メディアでの情報発信: YouTube番組やラジオ番組で、調査データをわかりやすく伝えた。 ビデオ作製 多くの人に伝えたいという思いから作成した。 これらの活動については福井テレビYouTube番組「高校生ごみパトロール」 https://www.youtube.com/live/YLA0951vb2g の18分ごろから約10分間に収録されている。

※各高校より御協力いただき作成。